

# 環境経営レポート

対象期間：2024年1月1日～12月31日



株式会社カネゼン 枕崎工場

発行日：2025年3月28日 第5版



株式会社 **カネゼン**



# 目次

1. 組織の概要	p 3
2. 環境経営方針	p 4
3. 実施体制	p 5
4. 環境経営目標、計画	p 6
5. 環境経営目標の実績、取組結果	p 8
6. 次年度の環境経営目標	p 16
7. 当社の取組み	p 17
8. 環境関連法規の遵守状況、訴訟などの有無	p 19
9. 代表者における全体の評価と見直し・指示	p 20

# 1. 組織の概要

## ① 事業者名及び代表者名

株式会社カネゼン  
代表取締役 田村敦史

## ② 所在地

事業所名	所在地	エコアクション21	他の取得認証等
本社	静岡県焼津市一色166-1	認証対象	FSC22000 Ver5.1・MSC CoC
第二工場	静岡県焼津市惣右衛門1133-8	認証対象	-
第三工場	静岡県焼津市惣右衛門1280-14	認証対象	静岡県ミニHACCP
枕崎工場	鹿児島県枕崎市仁田浦町22	認証対象	大日本水産会HACCP・MSC CoC

## ③ 環境管理責任者、事務局担当者

- 環境管理責任者 環境管理課 課長
- 事務局担当者 製造管理課 課長

## ④ 事業活動の内容

削り節、削り節加工品、成形節、荒節の製造



## ⑤ 事業の規模

	主な製品群	2024年			2023年		
		生産量	従業員	延床面積	生産量	従業員	延床面積
		(t)	(人)	(m <sup>2</sup> )	(t)	(人)	(m <sup>2</sup> )
本社	削り節	208	23	2,153	229	23	2,153
第二工場	削り節加工品	29	7	771	36	8	771
第三工場	成形節	582	12	1,293	533	12	1,293
枕崎工場	鯉節（荒節）	1,183	34	3,876	816	26	3,876
合計		2,002	76	8,093	1,614	69	8,093

## ⑥ 事業年度

毎年1月1日～12月31日

## ⑦ レポートの運用期間及び発行日

環境経営レポートの運用期間 2024年1月1日～2024年12月31日  
環境経営レポートの発行日 2024年3月31日

## ⑧ 対象範囲

活動	削り節、削り節加工品、成形節、荒節の製造
対象組織	本社 第二工場 第三工場 枕崎工場

## 2. 環境経営方針

### 【基本理念】

株式会社カネゼンは、社是及び食品安全方針に基づき、「安心・安全・信頼」の三つの柱を基本にお客様のさわやかライフに貢献していきます。

地球環境保全は食品安全とともに経営の最重要課題の一つであることを認識し、持続可能な社会の実現に向け、以下の行動指針に基づき企業活動に取り組みます。

### 【行動指針】

#### 1. 環境負荷の低減と環境保全活動に取り組みます

- 1) 省エネ（電気・化石燃料）推進によるCO<sub>2</sub>削減
- 2) 廃棄物の3R（Reduce/Reuse/Recycle）推進による排出量削減
- 3) 用水使用量の削減
- 4) 化学物質の適正管理
- 5) 食品廃棄物再生利用95%以上維持

#### 2. 環境関連法規、条例、規制基準を遵守します

#### 3. 環境に配慮した製造活動を中心に環境経営の継続的改善を行います

#### 4. 環境コミュニケーションを積極的に実施します

- 1) 社外においては、環境活動レポートを公開し、利害関係者とのより良いコミュニケーションを実践します
- 2) 社内においては、全従業員にこの基本理念及び基本方針を周知し、全社員参画による取り組みを目指します



これら活動を通じて、SDGsが掲げる目標実現に努めていきます。



制定：2020年9月01日

改訂：2024年4月16日

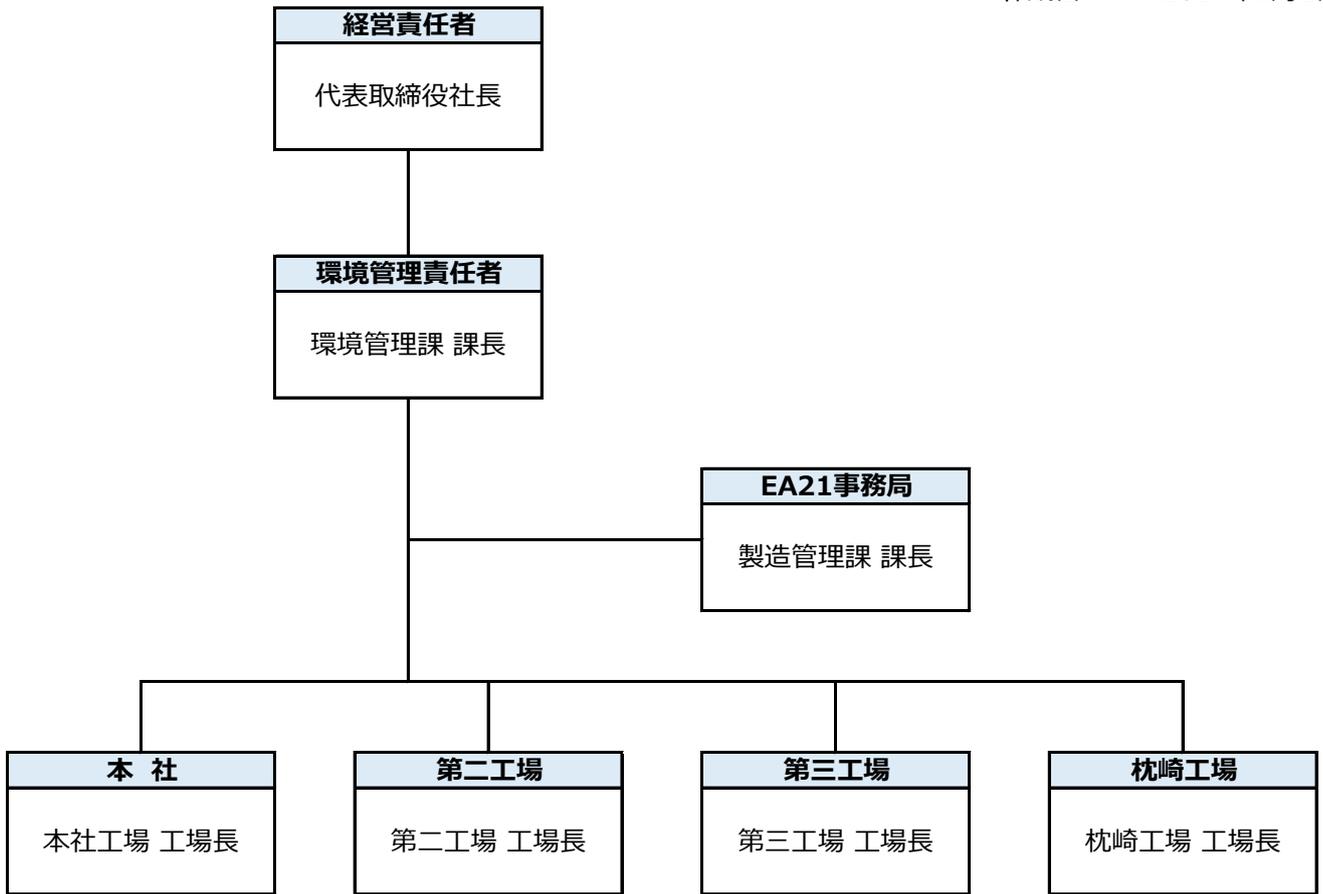
代表取締役

田村 敦史

3版

# 3. 実施体制

作成日 2024年1月1日



## 【関係者の権限と役割】

### 経営責任者

- ① 環境経営全般に関する責任と権限
- ② 環境管理責任者の任命
- ③ 環境経営に必要な資源の準備
- ④ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
- ⑤ 環境経営方針の制定及び改訂
- ⑥ 環境経営システム全体の評価と見直し・指示
- ⑦ 実施体制の構築

### 環境管理責任者

- ① 環境経営システム全般の運用・管理
- ② 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ③ 取組状況の経営責任者への報告
- ④ 環境教育の企画・計画立案

### EA21事務局

- ① 環境負荷データの集計
- ② 環境経営目標・環境経営計画の進行管理
- ③ 環境経営レポートの作成
- ④ 環境負荷及び環境への取組の自己チェックの実施
- ⑤ 環境関連法規等の遵守状況のチェック
- ⑥ 文書・記録の管理
- ⑦ 環境教育の企画・計画立案、教材作成・実践指導

### 各部門長

- ① 部門の問題点把握と是正対策の実施
- ② 部門取組状況の事務局への報告
- ③ 部門の従業員教育

### その他の従業員

- ① エコアクション21活動を推進する

# 4. 環境経営目標、計画

## ①製品1t製造当たりのCO<sub>2</sub>排出量削減（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,377,360				
製品生産量	ton	1,362				
製品1t当たりCO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,011	1,006	1,001	996	991

※購入電力の排出係数は「電気事業者別排出係数R3年度実績（中部電力ミライズ0.377・九州電力0.421）」を使用

### ■目標達成のための手段

		本社	第二	第三	枕崎
電気	A 不要時は照明を消す	○	○	○	○
	B サーキュレーター等を併用しエアコン温度を適宜調節する	○	○	○	○
	C エアコンのフィルターを清掃する	○	○	○	○
	D 機器の空運転は必要最小限に抑える	○	○	○	○
	E コンプレッサーの適正稼働を行う	○	○	-	○
	F エアー漏れがないかを確認する	○	○	-	○
	G 効率的な生産を行う	○	○	○	○
	H 使用量をモニタリングする	○	○	○	○
	I デマンド監視装置を活用し、目標デマンド値を超えないよう管理する	○	○	○	○
	J 照明器具を段階的にLED化する	○	○	○	○
	K 太陽光発電を効率よく稼働させる	○	-	-	-
ガソリン	A 不必要なアイドリングは禁止する	○	○	○	○
	B 効率的なルートを選定する	○	○	○	○
	C 低冷房運転を励行する	○	○	○	○
	D 車両の定期点検を実施する	○	○	○	○
	E 使用量をモニタリングする	○	○	○	○
	F 省エネ車への切り替えを検討する	○	-	-	-
都市ガス	A 夏季は温水手洗いを停止する	○	○	○	○
	B 機器の空運転は必要最小限に抑える	○	○	○	○
	C 効率的な生産を行う	○	○	○	○
	D ボイラーの適正稼働を行う	○	○	○	○
	E 蒸気漏れがないかを確認する	○	○	○	○
	F 使用量をモニタリングする	○	○	○	○

## ②製品1t製造当たりの水使用量削減（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
水使用量	m <sup>3</sup>	43,789				
製品生産量	ton	1,362				
製品1t当たり水排出量	m <sup>3</sup>	32.2	31.8	31.5	31.2	30.9

### ■目標達成のための手段

		本社	第二	第三	枕崎
水	A 用水を使い終わったら必ず蛇口を閉めることを徹底する	○	○	○	○
	B 配管に漏れがないかを確認する	○	○	○	○
	C 水道メーターをチェックし使用量に異常がないかをモニタリングする	○	○	○	○

③廃棄物排出の再資源化率（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
産業廃棄物排出量	ton	104				
一般廃棄物排出量	ton	16				
廃棄物排出量合計	ton	120	120	120	120	120
廃棄物再資源化率	%	94.7	90.0	90.0	90.0	90.0

■目標達成のための手段

		本社	第二	第三	枕崎
一般 廃棄物	A コピー用紙は適宜両面使用する	○	○	○	○
	B 手洗い後の手拭きはペーパータオル1枚を基本とする	○	○	○	○
	C 可燃ごみと資源ごみを分別する	○	○	○	-
	D 排出量をモニタリングする	○	○	○	○
	E 帳票類の電子化を検討する	○	-	-	-
産 廃	A 印字不良、シール不良による包材ロスを抑える	○	○	-	-
	B 改版、終売に伴う包材の大量処分を抑える	○	○	-	-
	C 分別を進め、リサイクルに回せる分はリサイクルに回し、排出量を削減する	○	○	○	○

④PRTR制度対象化学物質 使用量のモニタリング（本社・第二工場）

※使用量が少ないため、数値目標は設定せず、モニタリングのみとする。

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
PRTR制度対象化学物質使用量	kg	3.5	モニタリングのみ	モニタリングのみ	モニタリングのみ	モニタリングのみ

■目標達成のための手段

		本社	第二	第三	枕崎
物 化 質 学	A 該当商品の購入量をモニタリングする	○	○	-	-
	B 該当商品の化学物質排出量をモニタリングする	○	○	-	-
	C 化学物質の安全性に関する情報をSDSにより管理する	○	○	○	○

⑤食品廃棄物再生利用率 95%以上（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
食品廃棄物発生量	ton	697				
再生量	ton	697				
再生率	%	100	95	95	95	95

■目標達成のための手段

		本社	第二	第三	枕崎
残渣 再生	A 生産工程で発生する副産物は、肥料化等で再利用する	○	○	○	○
	B 再生利用実施率をモニタリングする	○	○	○	○

# 5. 環境経営目標の実績、取組結果

## ①製品1t製造当たりのCO<sub>2</sub>排出量削減（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

### ■結果

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		基準年実績	実績	実績	実績	実績
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,377,360	1,297,352	1,410,264	1,368,779	
製品生産量	ton	1,362	1,241	1,614	2,002	
製品1t当たりCO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,011	1,045	874	<b>684</b>	

※購入電力の排出係数は「電気事業者別排出係数R3年度実績（中部電力ミライズ0.377・九州電力0.421）」を使用

2024年目標 (kg-co <sub>2</sub> /製品1t)	996
2024年実績 (kg-co <sub>2</sub> /製品1t)	<b>684</b>



**目標達成**

項目	環境管理責任者 評価		次年度の 取組み	
	1月～6月	7月～12月		
電気	A 不要時は照明を消す	○	○	継続
	B サーキュレーター等を併用しエアコン温度を適宜調節する	○	○	継続
	C エアコンのフィルターを清掃する	○	○	継続
	D 機器の空運転は必要最小限に抑える	○	○	継続
	E コンプレッサーの適正稼働を行う	○	○	継続
	F エアー漏れがないかを確認する	○	○	継続
	G 効率的な生産を行う	○	○	継続
	H 使用量をモニタリングする	○	○	継続
	I デマンド監視装置を活用し、目標デマンド値を超えないよう管理する	○	○	継続
	J 照明器具を段階的にLED化する	△	△	継続
	K 太陽光発電を効率よく稼働させる	○	○	継続
ガソリン	A 不必要なアイドリングは禁止する	○	○	継続
	B 効率的なルートを選定する	○	○	継続
	C 低冷房運転を励行する	○	○	継続
	D 車両の定期点検を実施する	○	○	継続
	E 使用量をモニタリングする	○	○	継続
	F 省エネ車への切り替えを検討する	△	△	継続
都市ガス	A 夏季は温水手洗いを停止する	○	○	継続
	B 機器の空運転は必要最小限に抑える	○	○	継続
	C 効率的な生産を行う	○	○	継続
	D ボイラーの適正稼働を行う	○	○	継続
	E 蒸気漏れがないかを確認する	○	○	継続
	F 使用量をモニタリングする	○	○	継続

評価：○⇒実施、達成 △⇒一部実施、一部達成 ×⇒未実施、未達成

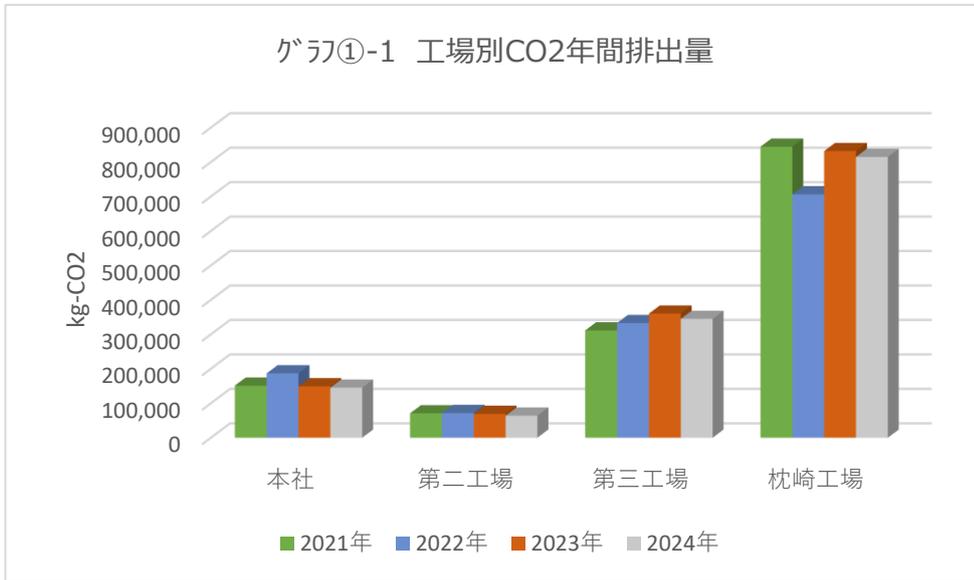
### ■考察

①-1 工場別にCO<sub>2</sub>年間排出量を比較しました。枕崎工場が圧倒的に排出していることが確認できます。

表①-1 工場別CO<sub>2</sub>年間排出量 (kg-CO<sub>2</sub>)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
本社	151,002	186,727	149,192	145,262	
第二工場	70,753	71,604	69,253	63,964	
第三工場	311,242	332,709	360,112	344,765	
枕崎工場	844,363	706,312	831,707	814,788	
合計	1,377,360	1,297,352	1,410,264	1,368,779	0

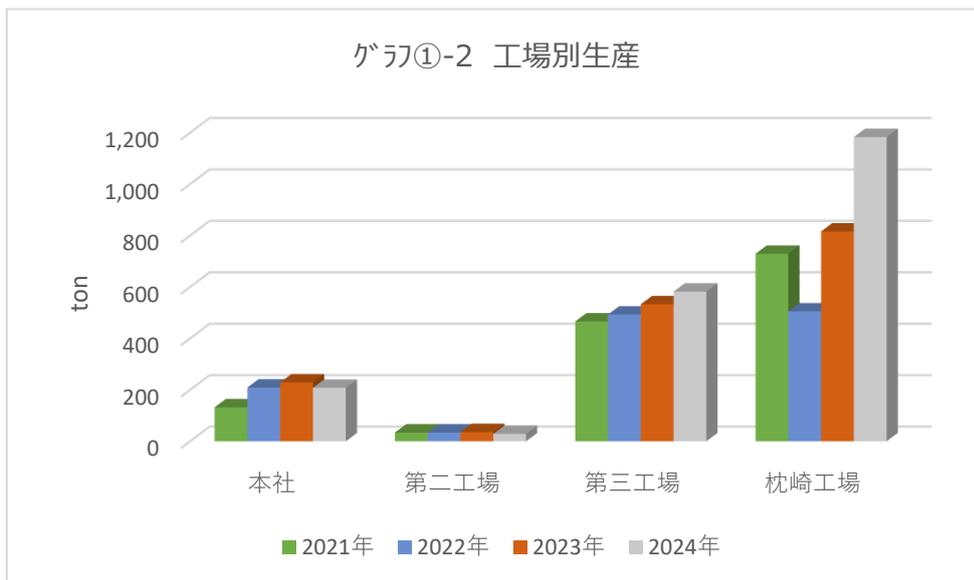
※購入電力の排出係数は「電気事業者別排出係数R3年度実績（中部電力ミライズ0.377・九州電力0.421）」を使用



①-2 工場別生産量の比較です。枕崎工場の生産量が増えていることが確認できます。

表①-2 工場別生産量 (ton)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
本社	132	209	229	208	
第二工場	34	34	36	29	
第三工場	466	493	533	582	
枕崎工場	729	505	816	1,183	
合計	1,361	1,241	1,614	2,002	0

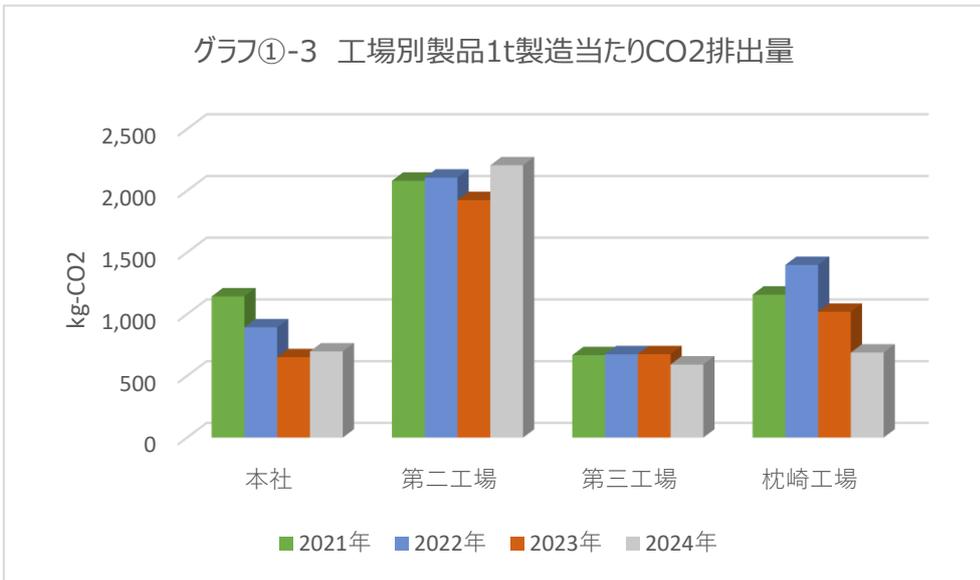


表①-3 工場別に製品1t製造当たりのCO2排出量の比較です。第二工場製品の環境負荷が高くなっていますが枕崎工場のCO2排出量が減少しました。

表①-3 工場別 製品1t製造当たりCO<sub>2</sub>排出量 (kg-CO<sub>2</sub>)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
本社	1,144	893	651	698	
第二工場	2,081	2,106	1,924	2,206	
第三工場	668	675	676	592	
枕崎工場	1,158	1,399	1,019	689	

グラフ①-3 工場別製品1t製造当たりCO2排出量

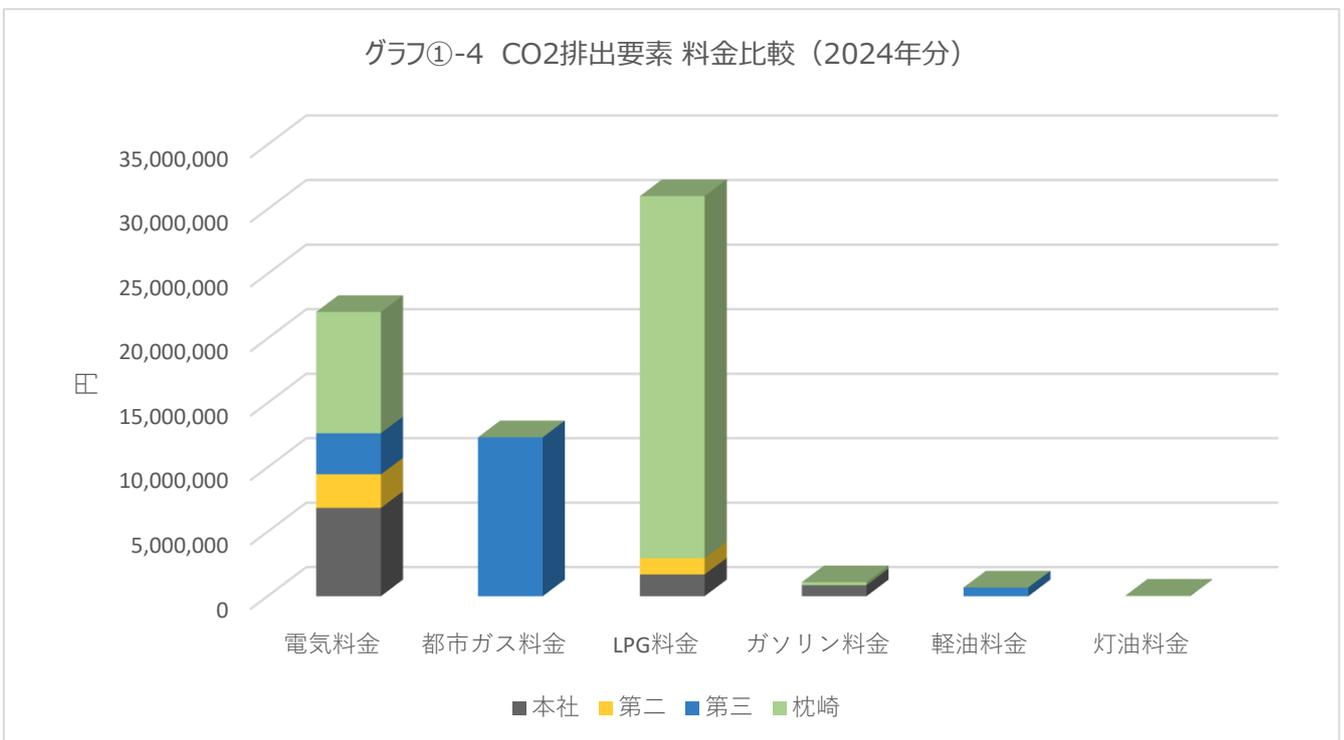


①-4 工場別にCO2排出要素の環境負荷を金額ベースで比較しました。本社工場では電気・第三工場、枕崎工場ではガスに依存していることが確認できます。これらを低減していくことで経済的負荷が軽減されるとともに、CO2排出量の削減にも繋がっていくことが確認できます。

表①-4 工場別 CO<sub>2</sub>排出要素の比較 (2024年分)

環境負荷項目	単位	本社	第二工場	第三工場	枕崎工場	合計
電気使用量	kWh	260,017	99,035	124,036	438,673	921,761
電気料金	円	6,848,758	2,606,536	3,189,415	9,401,552	22,046,261
都市ガス使用量	m <sup>3</sup>	0	0	131,154	0	131,154
都市ガス料金	円	0	0	12,332,151	0	12,332,151
LPG使用量	kg	11,574	8,876	0	208,730	229,180
LPG料金	円	1,686,016	1,262,624	0	28,061,097	31,009,737
ガソリン使用量	ℓ	5,394	0	0	1,276	6,670
ガソリン料金	円	1,081,936	0	0	226,917	1,308,853
軽油使用量	ℓ	0	0	5,702	0	5,702
軽油料金	円	0	0	675,913	0	675,913
灯油使用量	ℓ	0	0	0	384	384
灯油料金	円	0	0	0	46,557	46,557

グラフ①-4 CO2排出要素 料金比較 (2024年分)



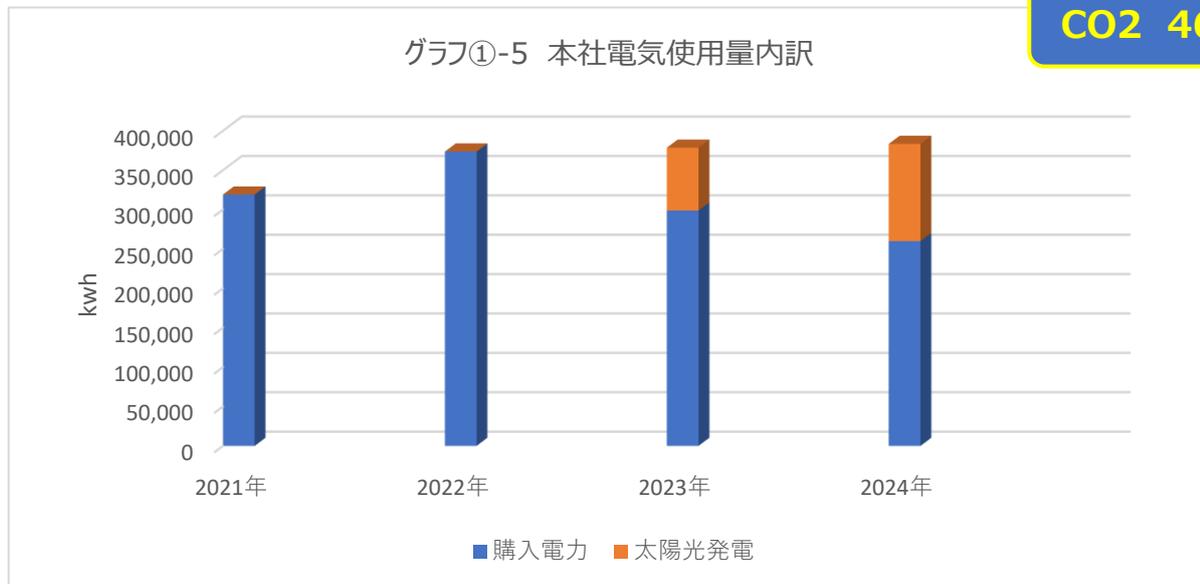
①-5 本社の年度別電気使用量を比較しました。太陽光発電の導入から約2年経過し運用方法が確立しつつあり、約4割を太陽光発電で賄っていることが確認できます。

表①-5 本社電気使用量

		2021年	2022年	2023年	2024年
購入電力	kWh	319,107	373,653	298,822	260,017
	円	6,162,461	10,132,602	8,539,346	6,848,758
太陽光発電	kWh	0	0	79,699	123,364
	円	0	0	-2,277,534	-3,249,365

**CO2 46t削減**

グラフ①-5 本社電気使用量内訳



2024年度の工場全体での生産量は増加しましたがCO2排出量は減少し「製品1t当たりのCO2排出量」の目標も達成することができました。

達成の要因は本社の太陽光発電による成果です。2024年度より発電設定を模索し、年間を通じて設定変更を行い発電量のアップにつながった結果が現れています。さらなる発電量のアップを目指し、条件設定を進めていきます。

## ② 製品1t製造当たりの水使用量削減（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

### ■ 結果

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		基準年実績	実績	実績	実績	実績
水使用量	m <sup>3</sup>	43,789	42,865	52,385	50,316	
製品生産量	ton	1,362	1,241	1,614	2,002	
製品1t当たり水排出量	m <sup>3</sup>	32.2	34.5	32.5	25.1	

2024年目標 (m <sup>3</sup> /製品1t)	31.2	➡	目標達成
2024年実績 (m <sup>3</sup> /製品1t)	25.1		

項目	A	B	C	環境管理責任者 評価		次年度の 取組み
				1月～6月	7月～12月	
水	用水を使い終わったら必ず蛇口を閉めることを徹底する	○	○	○	○	継続
	配管に漏れがないかを確認する	○	○	○	○	継続
	水道メーターをチェックし使用量に異常がないかをモニタリングする	○	○	○	○	継続

評価：○⇒実施、達成    △⇒一部実施、一部達成    ×⇒未実施、未達成

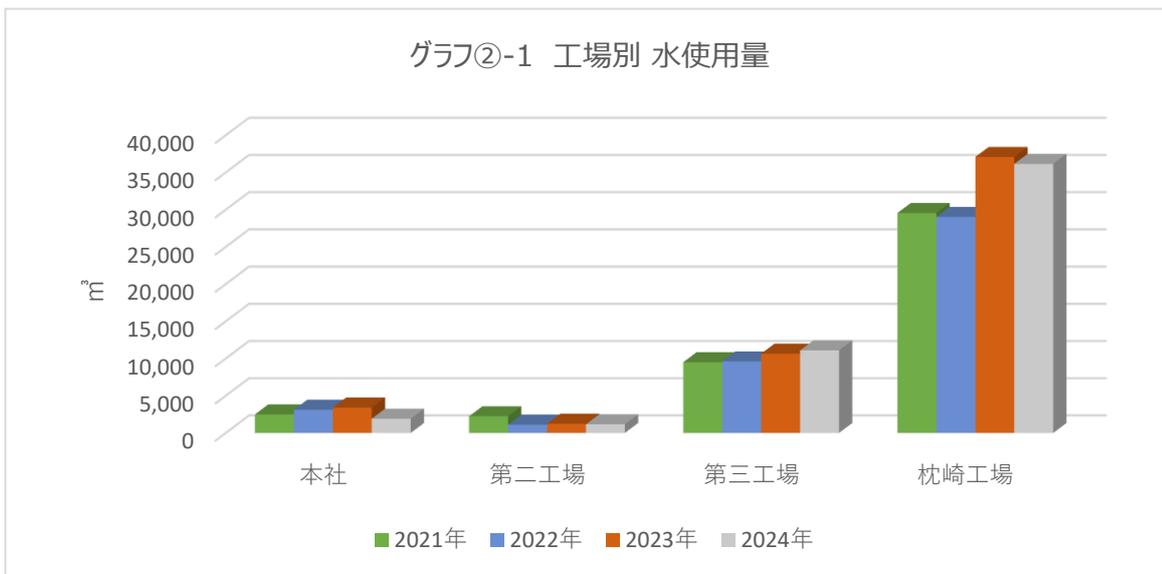
### ■ 考察

②-1 工場別に水（上水+地下水）年間使用量を比較しました。枕崎工場の使用量が圧倒的であることが確認できます。

表②-1 工場別 水使用量 (m<sup>3</sup>)

	2021年	2022年	2023年	2024年
本社	2,490	3,117	3,410	1,914
第二工場	2,243	1,107	1,234	1,164
第三工場	9,508	9,612	10,652	11,089
枕崎工場	29,552	29,029	37,089	36,149
合計	43,793	42,865	52,385	50,316

※2021年枕崎工場の数値は一部推測値含む。地下水の水道メーターが未設置であったため。

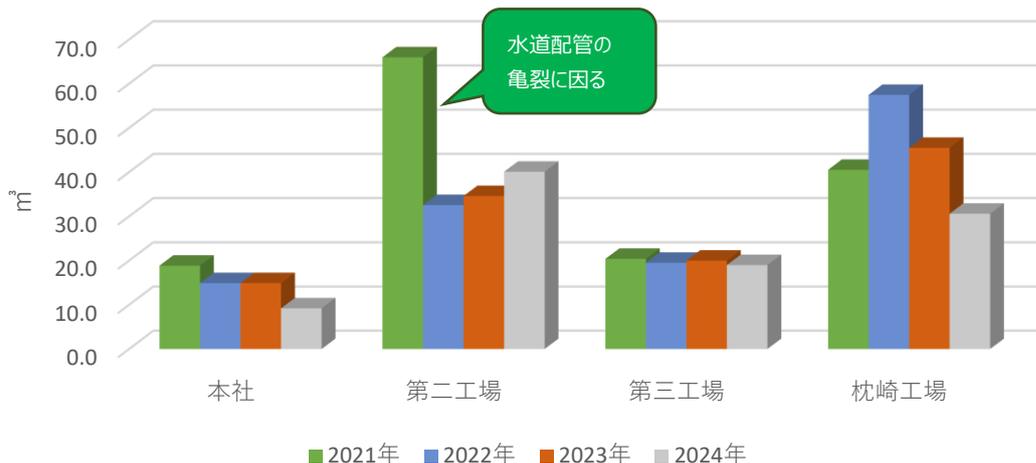


②-2 工場別に製品1t製造当たりの水使用量を比較しました。第二工場以外の工場での数値が改善されています。

表②-2 工場別製品1t製造当たりの水使用量 (m<sup>3</sup>)

	2021年	2022年	2023年	2024年
本社	18.9	14.9	14.9	9.2
第二工場	66.0	32.6	34.6	40.1
第三工場	20.4	19.5	20.0	19.0
枕崎工場	40.5	57.5	45.5	30.6

グラフ②-2 工場別 製品1t製造当たりの水使用量



CO2排出量同様、水の使用量も枕崎工場が突出しています。前年度未達成の「製品1t製造当たりの水使用量」が第二工場以外の工場での削減ができ目標を達成することができました。

特に本社及び枕崎工場では従業員への節水の協力を呼びかけにより成果が現れました。

次年度の本社では冷凍・冷蔵庫設備を水冷から空冷へ変更しクーリングタワーで使用していた水を削減できます。従業員の意識による結果が出ているので今後も教育及び呼びかけを継続していきます。

### ③ 廃棄物排出の再資源化率（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

#### ■ 結果

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		基準年実績	実績	実績	実績	実績
産業廃棄物排出量	ton	104	96	161	210	
一般廃棄物排出量	ton	13	18	15	15	
廃棄物排出量合計	ton	117	114	176	225	
再資源化量	ton	111	107	169	218	
廃棄物排出の再資源化率	%	94.7	93.8	95.9	96.9	

2024年目標 (%)	90.0	➡	目標達成
2024年実績 (%)	96.9		

項目	環境管理責任者 評価	次年度の		
		1月～6月	7月～12月	取組み
一般廃棄物	A コピー用紙は適宜両面使用する	○	○	継続
	B 手洗い後の手拭きはペーパータオル1枚を基本とする	△	△	継続
	C 可燃ごみと資源ごみを分別する	○	○	継続
	D 排出量をモニタリングする	○	○	継続
	E 帳票類の電子化を検討する	△	△	継続
産業廃棄物	A 印字不良、シール不良による包材ロスを抑える	○	○	継続
	B 改版、終売に伴う包材の大量処分を抑える	○	△	継続
	C 分別進めリサイクルに回せる分は回し、排出量を削減する	△	△	継続

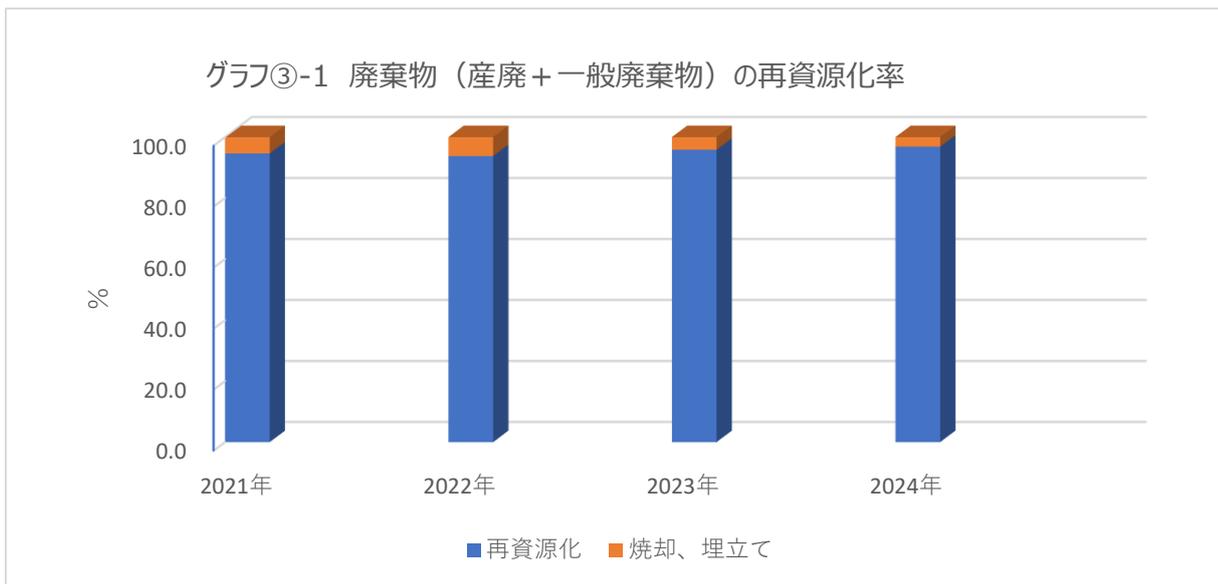
評価：○⇒実施、達成 △⇒一部実施、一部達成 ×⇒未実施、未達成

■ 考察

③-1 廃棄物の再資源化率を比較しました。焼却、埋立ての割合は1割未満であり、再資源率が高いことが確認できます。

表③-1 廃棄物の再資源化率

			2021年	2022年	2023年	2024年	再資源化の内容
産廃	総排出量	ton	104	96	161	210	「廃プラ」⇒固形燃料化
	再資源化量	ton	101	92	158	206	「汚泥」⇒堆肥化
	再資源化率	%	96.9	95.8	98.1	98.1	「安定型混合物」⇒分別、再生
一般	総排出量	ton	13	18	15	15	
	再資源化量	ton	10	15	11	12	「ダンボール」⇒再生紙
	再資源化率	%	77.0	83.0	71.8	80.0	
全体	総排出量	ton	118	114	176	225	
	再資源化量	ton	111	107	169	218	-
	再資源化率	%	94.7	93.8	95.9	96.9	



本年度より廃棄物は再資源化率のモニタリングへ変更しました。

理由としては生産量が増えることで廃棄物量も増えてしまい目標の設定が難しくなっていました。

特に枕崎工場の生産量が増えています。生産に伴う排水処理量が増加し、余剰汚泥量が増え産業廃棄物排出量が増えています。生産活動の結果であって、やむを得ない排出と考えられます。

当社の廃棄物の再資源化率を確認してみると9割以上有効活用されています。

朝礼教育等で分別への協力依頼やさらなる分別を進め、再資源化率を向上させ、廃棄物の削減につなげていきます。

④PRTR制度対象化学物質 使用量のモニタリング（本社・第二工場）

■ 結果

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		基準年実績	実績	実績	実績	実績
PRTR制度対象化学物質使用量	kg	3.5	8.8	8.0	8.3	

2024年目標 (kg)	モニタリングのみ
2024年実績 (kg)	8



目標達成

項目	環境管理責任者 評価		次年度の 取組み		
	1月～6月	7月～12月			
物 化 質 学	A	該当商品の購入量をモニタリングする	○	○	継続
	B	該当商品の化学物質排出量をモニタリングする	○	○	継続
	C	化学物質の安全性に関する情報をSDSにより管理する	○	○	継続

評価：○⇒実施、達成 △⇒一部実施、一部達成 ×⇒未実施、未達成

### ■ 考察

該当の化学物質は、洗浄剤由来の成分です。  
 洗浄剤は年間1～3缶程度の使用であり、洗浄剤中の対象化学物質は換算すれば数kg程度にすぎません。  
 今後も使用量が増える見込みはないことから、数値目標は掲げず使用量のモニタリングを継続していくこととします。

## ⑤ 食品廃棄物再生利用率 95%以上維持（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

### ■ 結果

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		基準年実績	実績	実績	実績	実績
食品廃棄物発生量	ton	697	388	700	1,028	
再生量	ton	697	388	700	1,028	
再生率	%	100	100	100	100	

2024年目標 (kg)	95%以上
2024年実績 (kg)	100



目標達成

項目	環境管理責任者 評価		次年度の 取組み		
	1月～6月	7月～12月			
残渣 再生	A	生産工程で発生する副産物は、肥料化等で再利用する	○	○	継続
	B	再生利用実施率をモニタリングする	○	○	継続

評価：○⇒実施、達成 △⇒一部実施、一部達成 ×⇒未実施、未達成

### ■ 考察

製造過程で発生する主な食品廃棄物は以下の通りです。

本社	第二工場	第三工場	枕崎工場
			
飛散した削り粉、 床に落ちた製品等	製造ラインに残存した製品、 床に落ちた製品等	形状不良品、 床に落ちた製品等	原魚生切り後の 頭、内蔵、 骨等

これらは全量、有価物として引き取られ（一部産廃として引取り）、肥料化されるルートが確立されています。  
 この体制を今後も維持していくことで、目標達成に努めていきます。

## 6. 次年度の環境経営目標

2024年度はすべて目標達成となりました。  
 次年度以降も継続して参ります。  
 次年度環境経営目標は以下の通りです。

### ① 製品1t製造当たりCO<sub>2</sub>排出量の削減（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,377,360				
製品生産量	ton	1,362				
製品1t当たりCO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,011	1,006	1,001	996	991

※購入電力の排出係数は「電気事業者別排出係数R3年度実績（中部電力ミライズ0.377・九州電力0.421）」を使用

### ② 製品1t製造当たり水使用量の削減（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
水使用量	m <sup>3</sup>	43,789				
製品生産量	ton	1,362				
製品1t当たり水排出量	m <sup>3</sup>	32.2	31.8	31.5	31.2	30.9

### ③ 廃棄物（産業廃棄物＋一般廃棄物）再資源化率 90%以上（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
廃棄物排出量	ton	118				
再資源化量	ton	111				
再資源化率	%	94.7	90.0	90.0	90.0	90.0

### ④ PRTR制度対象化学物質 使用量のモニタリング（本社・第二工場）

※使用量が少ないため、数値目標は設定せず、モニタリングのみとする。

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
PRTR制度対象化学物質使用量	kg	3.5	モニタリングのみ	モニタリングのみ	モニタリングのみ	モニタリングのみ

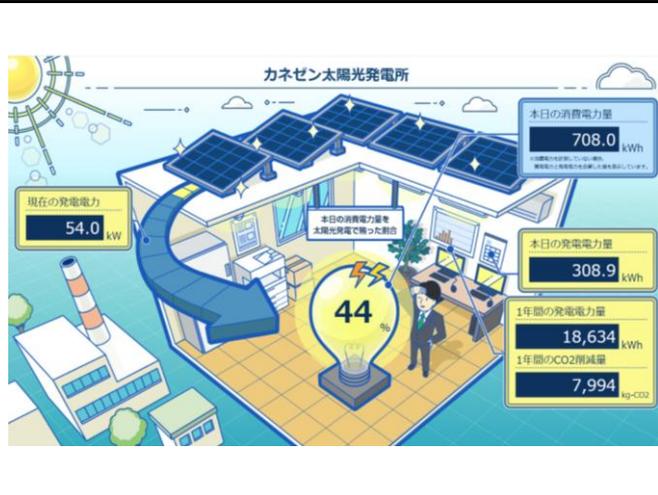
### ⑤ 食品廃棄物再生利用率 95%以上（本社・第二工場・第三工場・枕崎工場）

項目	単位	基準年	目標年			
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
食品廃棄物発生量	ton	697				
再生量	ton	697				
再生率	%	100	95	95	95	95

# 7. 当社の取組み

## ■ 自家消費型太陽光発電（本社工場）

- ・2024年度より太陽光発電の設定を調整し2023年度より効率良く発電することができました。
- ・発電によりCO2排出量を46t削減できました。



## ■ MSC CoC認証の取得（本社工場・枕崎工場）

- ・2024年10月にMSC CoC認証を取得しました。



## ■ LED化

- ・本社工場よりLED化を進めています。



■冷凍機の更新（本社工場）

- 2024年12月に本社工場の冷凍設備を更新しました。
- 年間約16tのCO2削減を見込んでいます。
- 冷凍設備の更新に伴いクーリングタワーも撤去しました。水の削減にもつながります。



■従業員教育  
（本社工場）

- 2024年9月、放水訓練、発電機起動訓練を行いました。



（本社工場）

- 本社工場へAEDを設置したため、セコム株式会社様の指導によるAED 心肺蘇生法講習も行いました。



# 8. 環境関連法規の遵守状況、訴訟などの有無

評価日：2025年3月1日

評価者：環境管理課

## (1) 環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

本社冷蔵庫の冷凍機の更新に伴いフロン回収及び処理を適正に行いました。

環境関連法規等の名称	適用される事項	対象設備	評価			
			本	二	三	枕
廃棄物の処理及び清掃等に関する法律（廃棄物処理法）	産業廃棄物保管表示の設置	産廃置場	○	○	○	○
	廃棄物の分別	産廃置場	○	○	○	○
	産業廃棄物管理票の運用、保管	-	○	○	○	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	-	○	○	○	○
	産業廃棄物運搬、処分の契約、契約書の保存	-	○	○	○	○
静岡県産業廃棄物の適正処理に関する条例	産業廃棄物が運搬又は処分されている施設の状況やその他事項を実地確認する（1回/年以上） ※鹿児島県は実地確認の義務なし	-	○	○	○	
水質汚濁防止法	処理施設の点検の実施	排水処理施設				○
	放流水の検査の実施（年1回）					○
騒音規制法	機器の異音の確認	コンプレッサー	○	○		
振動規制法	機器の異音の確認	コンプレッサー	○	○		
静岡県生活環境保全条例	機器の異音の確認	冷凍機 ケーリングタワー	○			
浄化槽法	保守点検	浄化槽	○	○	○	○
	1回/年の清掃		○	○	○	○
	1回/年の水質に関する定期検査		○	○	○	○
フロン排出抑制法	特定製品を廃棄する際はフロン類回収業者に引き渡す	エアコン	○	○	○	○
	第一種特定製品フロン類回収行程管理票の運用、保管		○	○	○	○
	業務用エアコン簡易点検（四半期に1回以上）		○	○	○	○
	業務用冷凍機器の定期点検（1回/年以上）	冷凍機	○			
食品リサイクル法	食品廃棄物等多量発生事業者の定期報告（毎年6月末）	-	○	○	○	○
容器包装リサイクル法	容器包装多量利用事業者の定期報告（毎年6月末）	-	○	○		
労働安全衛生法	SDSを管理する	-	○	○	○	○
消防法	消防用設備等の定期点検報告（1回/3年）	消火設備 火災報知器	○	○	○	○

## (2) 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

# 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

## ■ 環境管理責任者からの報告

項目	報告
1 環境経営方針	当環境経営方針をFSSC22000v6版とリンクさせ活用しています。
2 環境経営目標の達成状況	全ての目標に対し達成することができました。 廃棄物排出量の目標を廃棄物排出の再資源化率に変更しました。
3 環境に関する組織（実施体制含め）	組織に環境管理課が加わり製造管理課より引継ぎし運用を始めました。
4 環境経営計画及び取組み実施状況	本社太陽光発電の設定見直しにより少しずつですが効率よくなってきています。 LED化も進んでいます。
5 環境関連法規等の遵守状況	遵守されています。
6 環境コミュニケーション	行政指導はありませんでした。 近隣住民及び隣接する会社より苦情を受けましたが速やかに対処致しました。
7 その他	海洋管理認証であるMSC CoC認証を取得しました。

## ■ 代表者による全体の評価と見直し・指示

項目	変更の必要性	指示内容等
1 環境経営方針	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	課員教育で浸透させてください。
2 環境経営目標の達成状況	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	引き続き目標達成に努めてください。
3 環境に関する組織（実施体制含め）	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	環境教育によりさらなる活動強化につなげてください。 社外教育を含めて検討してください。
4 環境経営計画及び取組み実施状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	ステップアップを検討してください。
5 環境関連法規等の遵守状況	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	環境に関する法律等の情報収集及び遵守状況の確認を怠らないようにしてください。
6 環境コミュニケーション	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	引き続き近隣住民に十分配慮してください。
7 その他	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	MSC認証商品のアイテム拡大に努め、生態系の維持に貢献してください。

当社は、「環境経営」と「食品安全」の両立を重要な使命と考え、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進しております。その一環として、照明のLED化や安全な冷媒ガスを使用した冷凍機の更新を実施致しました。また生態系保護のためMSC CoC認証を取得、食品ロス削減にも取り組み、資源を無駄にしない持続可能な供給体制の構築を進めてまいりました。

これら活動を支えてくださる中央事務局様、審査員の皆様に深く感謝申し上げます。今後も「環境経営」と「食品安全」の両立を推進し、「地域と地球の環境に配慮した事業所」を目指し全社一丸で活動してまいります。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2025年3月28日

株式会社カネゼン

代表取締役

**田村 敦史**